

# AQUABASE<sup>アクアベース</sup>

特殊アクリルゴム系塗膜防水  
立上り・役物廻り塗膜防水併用工法

## 併用可能なアスファルト系防水工法

- ・アスファルト防水熱工法
- ・環境対応型アスファルト防水 ノンケトル冷熱併用工法「BANKS工法」
- ・改質アスファルトシート防水 常温粘着工法「ガムクール」
- ・改質アスファルト防水 トーチ工法「ポリマリット」

アスファルト系防水の複雑、狭小部位用に  
最適な「塗膜防水併用工法」

# AQUABASE

## 特長

### ①アスファルト系各種防水と併用可能

不定形の塗膜材を塗布するだけで防水層を形成できるので、複雑部位の施工に適しています。アスファルト系防水工法全般と相性がよく、専用プライマーを用いることで各種ルーフィング、シート類との良好な接着性を確保します。

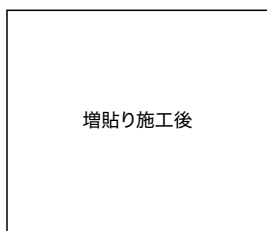
### ②改修現場にも最適な環境配慮型

水性材料のため、臭気などの問題や引火、火傷、中毒の危険がなく、作業員や周辺環境に対して安全に作業を行えます。また、ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆の認定を取得しており、安心して使用できます。  
(特化則・有機則・消防法 非該当)

### ③独自の乾燥機構による確実な硬化

表面の皮張り(塗膜表面だけが先に乾燥・硬化する水性特有の現象)を抑制しているため、下層まで均一に乾燥が進行して高品質な防水層を形成。夏場など気温が高い環境においても施工性に優れています。

## アクアベース施工手順の例



増貼り施工後



アクアプライマー塗布



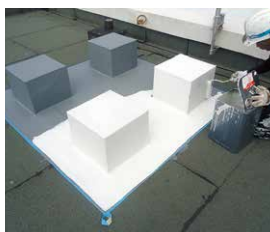
下塗り～メッシュJK施工



中塗り施工



上塗り施工



保護塗料塗布①



保護塗料塗布②



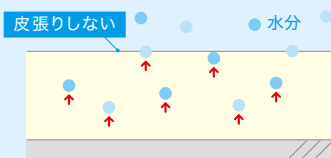
仕上がり

## 2液混合型アクリルゴム系塗膜防水材 アクアベース

「アクアベース」は、塗膜の水分が揮発することで乾燥硬化する材料です。

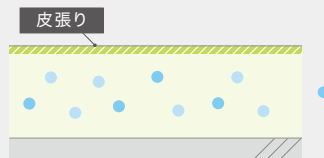
添加材を混合攪拌することで増粘し、立面などへの塗布作業に適した粘性に変化します。反応硬化型の材料とは異なり、混合後に急激な増粘が起きない設計です。混合後の材料は水分が揮発しないように保管することで、再攪拌により数日間使用することができます。

### アクアベースの硬化のしくみ



アクアベースは硬化に際して表層に皮張りを生じさせない特殊配合品。下層の水分が上層へ移動し、表層は常に水分を供給され続けることで皮張りが生じない仕組みです。

### 一般の水性塗膜防水材



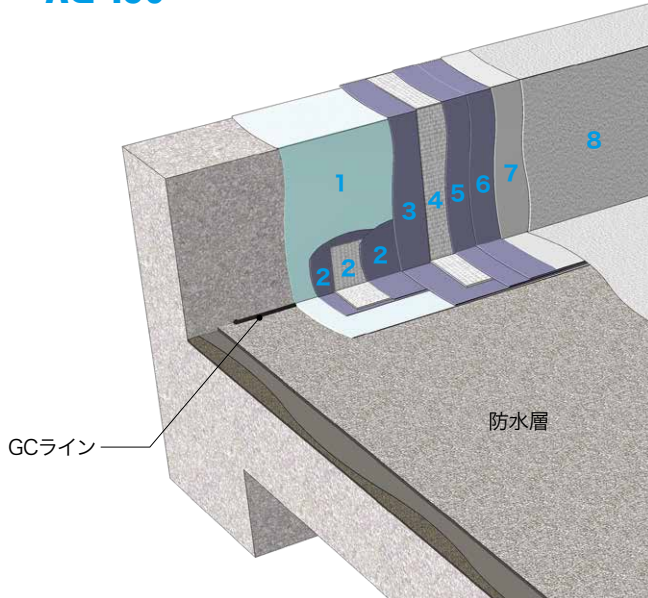
一般の水性塗膜防水材は表面から乾燥が始まることから、皮張りしやすく乾燥が遅い傾向があるため、工期が天候に左右されやすいという欠点があります。

# 塗膜防水併用工法

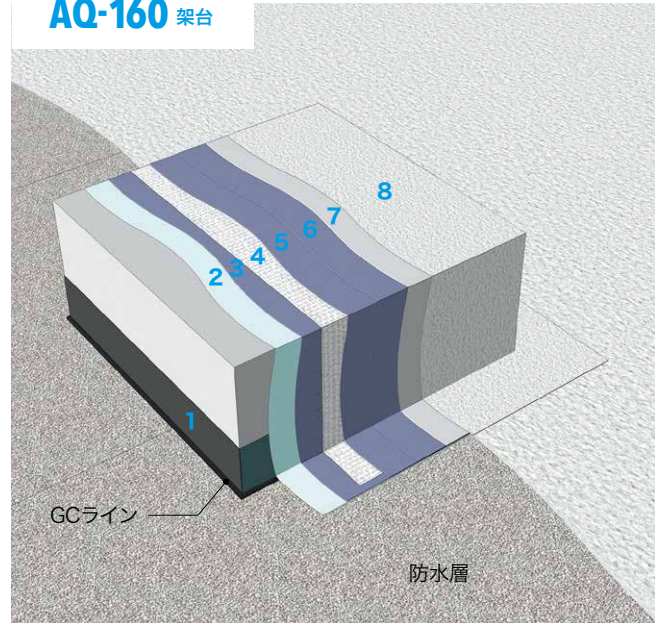
定形材のルーフィング、シートでは納めるのが難しい部位に用いる塗膜併用防水の環境対応型工法。

立上り、架台ともに、平面部を仕上げた後に入隅部の増貼りを行う「後増貼り」と、先に入隅部を増貼りする「先増貼り」のどちらでも適用可能です。

## AQ-160 立上り



## AQ-160 架台

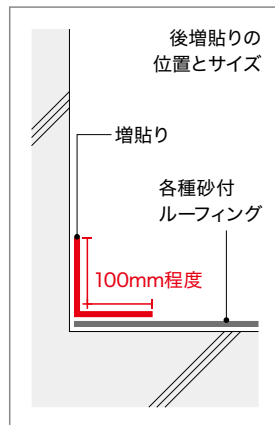


## AQ-160

適用下地: コンクリート

### 立上り(後増貼り) (単位:/m<sup>2</sup>)

1	アクアプライマー	0.15kg
2	増貼り※1	—
3	アクアベース	1.0kg
4	メッシュJK	—
5	アクアベース	1.0kg
6	アクアベース	1.0kg
7	SPファインカラー	0.15kg
8	SPファインカラー	0.15kg



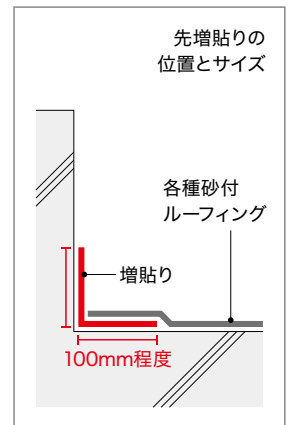
※1 後増貼りの場合、平面部の砂付ルーフィング施工後にアクアベース(1.0kg/m<sup>2</sup>)→メッシュJK増貼り→アクアベース(1.0kg/m<sup>2</sup>)の手順で施工します。

## AQ-160

適用下地: コンクリート

### 架台(先増貼り) (単位:/m<sup>2</sup>)

1	増貼り※2	—
2	アクアプライマー	0.15kg
3	アクアベース	1.0kg
4	メッシュJK	—
5	アクアベース	1.0kg
6	アクアベース	1.0kg
7	SPファインカラー	0.15kg
8	SPファインカラー	0.15kg



※2 先増貼りの場合、FX-33、ガムクールFXなど、平面部アスファルト工法の増貼り材を使用します。その場合は2層目の施工前に行ってください。

アクアベース併用工法は、立上り部の既存防水層を撤去せずに改修を行うことも可能です。詳しくは「コンポジットシステムAS」カタログをご覧ください。

### 注意事項

- ・アクアベースの各施工は指触により表面乾燥を確認した後、次工程に移ってください。
- ・側溝などの雨水が滞留する部位にAQ-160を施工する場合は、工程6と工程7の間に仲介プライマーとして、アクアプライマー(0.1kg/m<sup>2</sup>)を塗布してください。
- ・立上り、側溝部、架台廻りは原則既存防水層を撤去することを想定しています。その他の場合はご相談ください。
- ・アクアベース施工部位には必ずアクアプライマーを使用してください。
- ・アクアベースはエンシンシートと組合せての使用はできません。
- ・SPファインカラーに代えて、SPクリーンカラー2回塗り(0.2kg/m<sup>2</sup>+0.2kg/m<sup>2</sup>)、SPサーモコート2回塗り(0.4kg/m<sup>2</sup>+0.4kg/m<sup>2</sup>)、SPベース+SPファインカラー(0.45kg/m<sup>2</sup>+0.15~0.3kg/m<sup>2</sup>)もご採用いただけます。(価格別途)

# 材料一覧

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

種類	品名	規格	備考
防水材	アクアベース	20kg/セット(主材:19kg/缶、添加剤:1kg/缶)	2液混合型アクリルゴム系塗膜防水材 配合比(主材:添加剤) 19:1
	アクアプライマー	16kg/セット(A剤:8kg/缶、B剤:8kg/缶)	2液形水性エポキシ系プライマー 配合比(A剤:B剤) 1:1
副資材	メッシュJK	950mm×50m巻	防水層補強用ポリエステルメッシュ
	SPファインカラー	18kg/缶	高反射 水性アクリル系保護塗料 色:4色
	SPサーモコート	18kg/缶	高反射・防火 水性アクリル系保護塗料 色:3色
	SPベース	8kg/缶	アクアベース用 水性保護塗料
	SPTナー	1kg(600ml)/缶(計量カップ付)	保護塗料工程管理用着色材
	GCライン	330ccカート 850ccジャンボカート 各10本/箱	変成シリコン系シーリング材
工具	ゴムシパケ B-S/B-L	1個 クシ幅:150mm/300mm	防水材塗布用刷毛* ※交換ゴム(5枚入)別売

\*アクアベースを塗布できる所定量1.0kg/m<sup>2</sup>



アクアベース



アクアプライマー



メッシュJK



SPTナー



ゴムシパケ B-S



ゴムシパケ B-L

## 製品の取扱いと施工についての注意事項

- 下地の突起、粉塵、レイトランス、油脂分などは除去し、必要に応じて樹脂モルタルなどで平滑に仕上げてください。
- 入隅に段差がある場合には、GCラインで段差調整処理をしてから、アクアベースを施工してください。
- アクアベース、アクアプライマーは水性の材料のため、凍結させないようにご注意ください。
- 材料は5~40℃で直射日光の当たらない場所に保管してください。
- 降雨、降雪時または降雨、降雪が予想される場合には施工を避けてください。
- 気温が5℃以下では施工をしないように注意してください。
- 水性の材料のため、気温・季節等の条件で乾燥時間が異なることを考慮してください。
- 冬場は乾燥が遅くなりますので、必要に応じて1回の塗布量を減らし、所定量を塗り重ねて施工してください。
- アクアベースは小分けせず、全量で混合して使用するようになしてください。

アクアベースは、立上り部の既存防水層を撤去せずに改修を行うことも可能です。  
詳しくは「コンポジットシステムAS」カタログをご覧ください。

### カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
- ・各仕様ページの工程図は、工程を分かりやすく示すことを目的としたイメージ図です。下地や材料の形状・寸法・色は実際と異なります。

## 田島ルーフィング株式会社

<https://tajima.jp>

東京支店 〒101-8579 千代田区外神田4-14-1 TEL 03-6837-8888  
大阪支店 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-10-5 TEL 06-6443-0431  
札幌・仙台・北関東・千葉・横浜・多摩・金沢・名古屋・神戸・広島・福岡